

被爆75周年

第35回

埼玉県原爆死没者



慰 靈 式

と き 令和2年（2020年）7月26日（日）

午前10時より11時まで

と ころ さいたま市浦和区高砂 3-1-14・埼玉会館小ホール

主 催 埼玉県原爆被害者協議会

協 力 埼玉県地域婦人会連合会 埼玉県生活協同組合連合会
埼玉県平和運動センター 原水爆禁止埼玉県協議会
他 12 団体

後 援 埼 玉 県 埼玉県教育委員会
さいたま市 さいたま市教育委員会

第35回埼玉県原爆死没者慰霊式 式次第

- 1、オープニング
- 2、開式のことば
- 3、死没者名簿奉納、しらさぎ会物故者紹介
- 4、平和のともしび紹介
- 5、黙 禱
- 6、主催者慰霊のあいさつ
- 7、来賓あいさつ (埼玉県、さいたま市)
- 8、広島市長、長崎市長メッセージ紹介
- 9、来賓あいさつ (国会議員、国政政党)
- 10、メッセージをお寄せいただいた方々紹介
- 11、献花、折り鶴奉納
- 12、原爆許すまじ (CD)
- 13、閉式のことば

慰霊碑建立の趣意

昭和20年8月6日と9日に広島、長崎両市で原子爆弾に被爆し、現地で死亡・又は帰郷後に原爆症の後障害で死亡した埼玉県民及び同じく被爆者で戦後、他県から埼玉県に移住して後に死亡した者、更に、埼玉県民で引き取り人のないまま遺骨がまだ現地に留まる者、遺骨もなく広島、長崎の地の下に今も虚しく埋もれる者など、惨苦のうちに世を去られた埼玉の被爆者の御霊に「人類初めての核兵器の犠牲者」に相応しい弔意を捧げ、「二度と被爆者をつくらせぬ」とする被爆者の悲願と核兵器廃絶への県民の決意を後世に遺すため多数有志の方々のご協力をえて

ここに原爆死没者慰霊碑を建立する

1986年7月12日

埼玉県原爆被爆者団体協議会

(慰霊碑裏面の銘板より)

慰霊のことば

令和2年度、第35回埼玉県原爆死没者慰霊式にあたり、主催者を代表して、原子爆弾の犠牲になられた埼玉の被爆者の御霊に慰霊のことばを捧げます。

被爆から75年。人類にとって未曾有の体験をした被爆者が、ふたたび同じ苦しみを地球上の誰にも味あわせないために、核兵器も戦争もない世界の実現を求め、あわせて私たちが受けた原爆の被害に対して国の償いを求めてきた運動にとって今年は大きな年です。2017年7月国連総会で採択された「核兵器禁止条約」を50カ国の批准によって発効の実現を目指す年。また、2016年4月から世界規模で取り組んできた「ヒバクシャ国際署名」を集約する年です。しかし、これらの運動は、新型コロナウイルスの世界的感染のために全力投入が阻まれています。

国内の感染もまだ収束には程遠く、この慰霊式も参加者を50人に制限して開催せざるを得ませんでした。このせいやくを克服するために、慰霊式の全容を映像記録し、オンライン技術を活用して、多くの人々に同時参加していただく工夫をいたしました。

核兵器も戦争もない世界の実現を目指す運動は、核兵器禁止条約を明文化させるまでに発展してきた一方で、覇権を争う大国の首脳の心なき言動により危機的な状況にあります。

新型コロナウイルスの蔓延による人類存続の危機、気象変動による地球規模での生活環境の激変なども人類の生存を脅かし始めています。

核兵器による危機は人間が作り出したものです。被爆者の体験を次世代に語り残し、語り継ぐ重要性は一層高まっています。

慰霊式を支えて下さる団体、個人の方々としっかりと手を携えて、核兵器や原発のない世界の実現に向けて活動を続けます。

このことを御霊にお誓いし、慰霊の言葉とします。

令和2年（2020年）7月26日

埼玉県原爆被害者協議会

会長 田中 熙巳^{てるみ}

埼玉県知事メッセージ

本日、第35回埼玉県原爆死没者慰霊式が挙行されるに当たり、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げます。

そして、今なお、被爆による後遺症に苦しんでおられる方々に対し、心からお見舞いを申し上げます。

多くの尊い命を一瞬にして奪い去った原子爆弾が、広島市そして長崎市に投下されてから75年の歳月が経過しようとしています。

長い年月を経てもなお癒えることのない皆様の深い悲しみや辛い体験を風化させることなく、しっかりと若い世代へ語り継ぐことは、恒久平和の実現に向けた私たちの使命だと考えています。

この慰霊式を戦争や原爆の記憶を次世代に語り継いでいく場として、長年にわたり開催されている埼玉県原爆被害者協議会の皆様の御尽力に対して、改めて深く敬意を表します。

私も、735万県民の皆様の命を預る立場として、平和な社会の実現に全力を尽くすことをここに固くお誓い申し上げます。

結びに、原爆死没者の方々の御冥福を改めてお祈り申し上げますとともに、皆様の御平安を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

令和2年7月26日

埼玉県知事 大野元裕

慰霊碑前の「平和の火」

「この火」は原爆で廃墟となった広島の街から被爆者の遺族が持ち帰り、福岡県星野村の「平和の塔」で、被爆者の「憎しみの火」から「供養の火」、そして「平和の火」へと昇華されて静かに燃え続けているものです。

「この火」は全国55箇所に分火されているものですが、埼玉では、さいたま市見沼区に在る常泉寺で核廃絶と平和を訴えて1988年から赤々と燃え続けています。



さいたま市長メッセージ

第35回埼玉県原爆死没者慰霊式の挙行に際しまして、さいたま市民を代表し、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げるとともに、今なお被爆の後遺症に苦しまれている方々に、心からお見舞いを申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、多くの制約がある中、「継続」して、被爆者の援護や核兵器廃絶に向けた活動に日々取り組まれている埼玉県原爆被害者協議会の皆様の尊い志に対し、心より敬意を表します。

広島、長崎への原子爆弾の投下から、まもなく75年が経とうとしています。このような惨劇が二度と繰り返されてはならない。唯一の戦争被爆国として「核兵器のない世界」の実現に向けて、粘り強く努力を重ねていくこと。また、悲惨な体験の「記憶」を、次代を担う子供たちへ継承していくことは私たちの使命です。

本市におきましても、さいたま市平和展や、埼玉県原爆被害者協議会の皆様の協力を得て作成した、被爆体験者証言映像などを通じ、我が国の戦争の体験を後世に伝え、核兵器廃絶と世界の恒久平和実現に貢献するべく尽力してまいります。

結びに、原子爆弾の犠牲となられた方々のご冥福と、ご遺族、被爆者の皆様、並びに御参会の皆様方の御多幸を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

令和2年7月26日

さいたま市長 清水 勇人



埼玉県原爆死没者慰霊碑

被爆40周年を記念して昭和61年7月12日

県知事、全市町村、2000名を越える県民有志からの浄財により

当時の県立別所沼公園に建立される。

広島市長メッセージ

第35回埼玉県原爆死没者慰霊式が開催されるに当たり、広島市民を代表してメッセージをお送りいたします。

1945年8月6日、広島は人類史上最初の原子爆弾投下により街は一瞬にして廃墟と化し、多くの尊い命が奪われました。かろうじて生き延びた被爆者は、心身に深刻な傷を負いながらも、自らの体験を語り、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」との思いと平和への願いを訴え続けています。

しかし、世界にはいまだ1万3千発を超える核兵器が存在し、核兵器廃絶への動きも停滞しています。さらに、新型コロナウイルスという人類の新たな脅威に立ち向かうために、世界的な連帯が重要となる一方で、自国第一主義の台頭を始め、国家間の排他的、対立的な動きが緊張関係を高めています。

そうした意味から、人類が二度とこうした壮絶で悲惨な体験をすることがないように、「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴えるため、皆様が今年も埼玉県原爆死没者慰霊式を開催されることは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

終わりに、改めて原爆死没者の御霊に心から追悼の意を表しますとともに、御参会の皆様のご今後ますますの御健勝と御多幸を心からお祈りいたします。

令和2年(2020年)7月26日

広島市長 松井 一實



長崎市長からのメッセージ

このたび、「第35回埼玉県原爆死没者慰霊式」が開催されるにあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送りいたします。

核廃絶の願いを継承し、核兵器も戦争もない世界の実現を目指して活動を続けておられる皆様に対して心より敬意を表します。

1945年（昭和20年）8月9日午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾により、一瞬にして壊滅的な被害を受けました。すさまじい爆風と熱線そして放射線により7万4千人の尊い命が奪われ、7万5千人が負傷し、あの日から75年目を迎えた現在も多くの方々が放射線による後障害に苦しまれています。

昨年11月にローマ教皇・フランシスコが38年ぶりに長崎を訪問し、爆心地から「核兵器のない世界は可能であり必要である」と核兵器廃絶への力強いメッセージを発信し、私たちに大きな勇気をいただきました。

今年は被爆から75周年という節目の年です。新型コロナウイルスが世界的に拡大し、収束の見通しが立たない厳しい状況ですが、教皇からのメッセージを糧に、核兵器のない世界の実現を目指し、世界に向けた平和の発信と被爆の実相の継承に取り組んでまいります。皆様方におかれましても、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、埼玉県原爆被害者協議会のますますのご発展と参加された皆様方の御健康と御多幸を祈念いたしまして、メッセージといたします。

2020年（令和2年）7月26日

長崎市長 田上 富久



ご あ い さ つ

ご遺族はじめ、ご参列のみなさま

原爆によって命を奪われた方々に、ふかく追悼の意を表しますとともに、お集まりのみなさまに心からのごあいさつを申し上げます。

「あの日」から75年目を迎えました。

あの日私たちは、人類史上初めて米軍が実戦使用した核兵器による“地獄”を体験させられました。突然、無差別にむごい死を強いられた多くの人々の無念を胸に刻み、その後も次々と訪れる被爆者の死に直面し、自らの体と心に負わされた傷と向き合いながら、私たちは生きてきました。そして、自らの命を削る思いで体験を語り、この原爆被害は受忍できない、再び被爆者をつくってはならないと、運動を続けてまいりました。

原爆被害への国家補償も、核兵器廃絶も、未だ実現していません。

しかし、私たちが呼びかけた「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」が幅広い市民の賛同を得て世界中に広がっています。2017年7月には国連で核兵器禁止条約が採択され、3周年の今年7月初めには批准・加入が39カ国になりました。発効まであと11カ国を待つのみです。

すべての人が核兵器も戦争もない世界で平和に生きる礎となる「原爆被害への国家補償」は、すべての戦争被害者と手を結び、戦争で殺されていった人々と、未来に生きる人々に思いを馳せ、なんとしてもかちとらなければなりません。

原爆と同じ核エネルギーを利用した原発も、国民の安全を確保するためにはゼロを目指すしかありません。

遠い空から私たちの運動を見守っておられるみなさん。

私たちは、1日でも長く生きて、原爆被害への国家補償と核兵器廃絶を必ずや勝ち取ることを、ここに固くお誓い申し上げます。

2020年7月26日

日本原水爆被害者団体協議会

第35回埼玉県原爆死没者慰霊式 御中



原爆を許すまじ

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1、ふるさとのまち焼かれ
身よりの骨うめし焼け土に
今は白い花咲く
あ、許すまじ原爆を
三度許すまじ原爆を
我らの まちに | 2、ふるさとの海荒れて
黒き雨喜びの日はなく
今は船に人もなく
あ、許すまじ原爆を
三度許すまじ原爆を
我らの 海に | 3、ふるさとの空おもく
黒き雲今日も大地おおい
今は空に日もささず
あ、許すまじ原爆を
三度許すまじ原爆を
我らの 空に | 4、はらからの絶え間なき
労働にきづきあぐ富と辛
今は全てついで去らん
あ、許すまじ原爆を
三度許すまじ原爆を
世界の 上に |
|--|---|---|---|